



日本の気象の特徴(秋～冬)

◎ 台風

熱帯低気圧のうち、中心付近の最大風速が 17.2m / s 以上になったもの。

フィリピン沖合など、**高温** で **多湿** の海上で発生する。

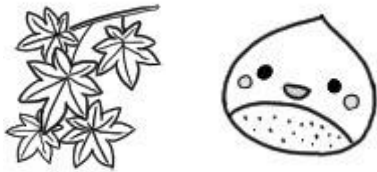
水蒸気が凝結するときの **熱** がエネルギー源である。

中心の雲のない領域を、台風の **目** という。

等圧線は **同心円状** で、前線が **ない** 。

大雨や強風、**高潮** ・高波、竜巻などの **突風** 被害を出すこともある。

積乱 雲が空を
おおい、**雷雨** が
降る。



◎ 秋

残暑が過ぎると **秋雨前線** の影響で雨になることが多い。

その後は **移動性高気圧** と低気圧が交互に通過。

はじめはぐずつき

その後は **晴** 天



◎ 冬

シベリア 気団が発達する。

北西 の季節風がふき、気圧配置は **西高東低** (冬型の気圧配置)となる。

日本海側は **大雪** になる。

太平洋側は **乾燥** した **晴** 天になる。

大雪は交通網などに被害をもたらすが、雪解け水は貴重な **水資源** になる。

日本海側と
太平洋側で
天候が異なる

◎ 身近な気象に関することば

春一番 : 立春から春分の間、強くふく、あたたかい南風。冬から春への季節の境の代名詞にもなる。

木枯らし : 晩秋から初冬にかけてふく、強い北風のこと。

地球温暖化の影響で、予想を超える干ばつや洪水の被害が世界的に発生している。国連はこの対策の1つと

して、『持続可能な開発目標(**SDGs**)』を示し、具体的な17の目標を発表した。